

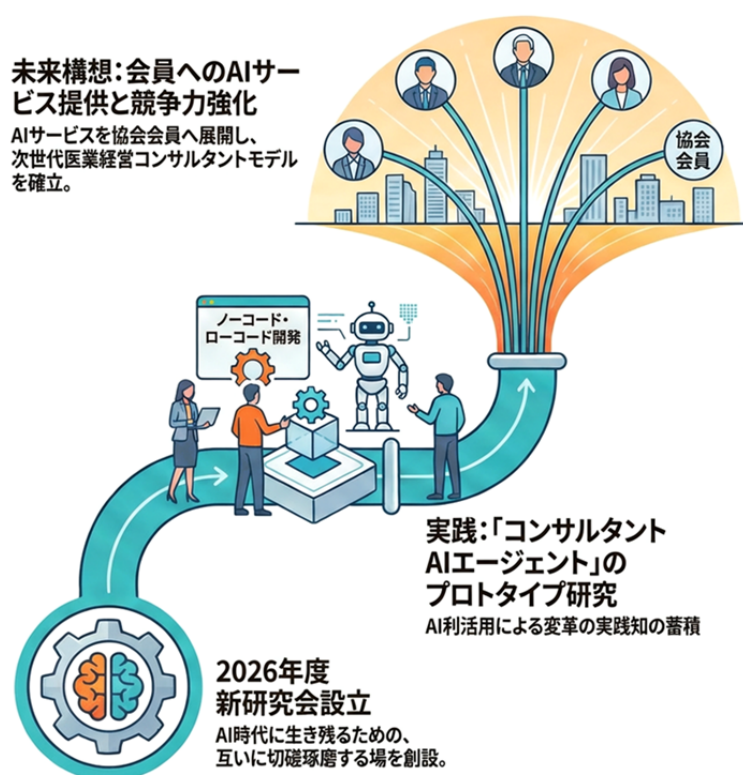
近畿地区協議会2026年度調査研究事業計画書

医業経営コンサルタントの未来を創る

Agentic AI 研究会

—新規研究会の設立—

Ver.1.66



公益社団法人

日本医業経営コンサルタント協会

Japan Association of Healthcare Management Consultants

大阪府(和歌山県連合)支部 理事 小川 敏治

I. 背景

1. AI利活用がもたらす社会全体の構造変革
2. 医業経営コンサルタントの深刻な遅れ

II. 目的

1. 研究活動のミッション
2. 将来構想

III. 概要

1. 研究会の基本方針
2. 利活用AIプラットフォームの選定
3. 研究体制
4. 会議体
5. 計画の具体性

IV. 今後の予定

- 【フェーズ0】 事前準備(2026年1月～4月)
- 【フェーズ1】 体制整備(2026年5月～6月)
- 【フェーズ2】 利用AIプラットフォーム構築(2026年7月～2026年9月)
- 【フェーズ3】 「コンサルタントAIエージェント」の研究(2026年10月～)

V. 添付資料

1. 2026年度概略スケジュール表
2. 参考資料

I. 背景

1. AI利活用がもたらす社会全体の構造変革

AI技術、特に大規模言語モデル(以下、LLM)に基づく生成AI(以下、GenAI)の急速な普及は、組織の競争環境と働き方を根本から覆しつつある。

1. AI技術の民主化と競争軸の変化

- ChatGPTなどの登場により、AIは専門家だけでなく誰もが使えるツールとなり、多くの組織が同じ水準での業務効率化や自動化を実現できる時代となった。
- これにより、従来のコストパフォーマンスや機能の差で争う競争軸がフラット化し、データに基づいた分析や効率化は、標準装備となる時代が到来する。
- AI標準装備となる時代では、人間固有の能力が新たな競争優位性の源泉となる。
 - 共感(Empathy)に基づく信頼関係
身体的共鳴を通じて本質的な課題を発見し、人間同士の信頼を構築する力。
 - 未来を構想し、本質を問う力(Conceptualization & Questioning)
混沌から本質を掴み、AIには立てられない「Why」を問い、未来のビジョンを描く力。
 - 身体を通じた実践知と賢慮(Embodied Knowledge & Phronesis)
実践から学び、身体化された知恵。文脈に応じた最善の判断と責任。

2. 組織経営におけるAIの戦略的位置づけ

- 多くの経営者は、AIを業務効率化のためのツールとして捉えがちだが、これでは投資対効果(ROI:Return on Investment)が得られにくい現状がある。
- AI-Firstを掲げる組織は、技術投資を増やしつつ、業務プロセス全体をAIに合わせて再設計することで、コスト削減と同時に新たな成長のための新しい顧客価値を創出している。
- 真の競争力強化のためには、AI技術の導入だけでなく、「何を解決すべきか」という問いの設計力や、組織・プロセス変革への集中的な投資が必要である。(BCGの「70-20-10の法則」¹では組織・プロセス変革に70%を推奨)

2. 医業経営コンサルタントの深刻な遅れ

生成AI利活用により、コンサルティング業務の根幹(調査、分析、資料作成)を自動化しつつある。一方、医療機関は医療DXの一環としてAI導入を加速させており、我々医業経営コンサルタントは深刻な遅れをとっている。このままでは、我々の専門性と価値が陳腐化する危機にある。

¹ BCG(ボストン コンサルティング グループ)が2025年、日本企業が優先的に考えるべき「経営上の重要論点」として提唱している、企業がAI技術を導入し成果を出すためのリソース配分比率。

多くの企業が陥りがちな「技術さえ導入すればうまくいく」という技術偏重(技術は「魔法の杖」?)を戒め、変革には人や組織の側面が最も重要であるという知見。(「BCGが読む経営の論点2025」日経BP 2024/11/8)

70%:人とプロセス - AIを効果的に活用するには、組織のプロセス変革や人材の育成・配置に最も多くのリソース(7割)を割くべきである。

20%:テクノロジー基盤 - データ収集・管理、ITインフラ構築などのテクノロジー基盤の整備に2割程度。

10%:アルゴリズム開発 - AIモデルやアルゴリズム自体の開発・導入にかかるリソースは1割程度。

変革の三位一体の原則、つまり、変革を成功させるには、「戦略(何をやるか)」「プロセス(どう進めるか)」「人・組織文化(誰が、どのよう」の三つがバランス良く機能する必要がある。

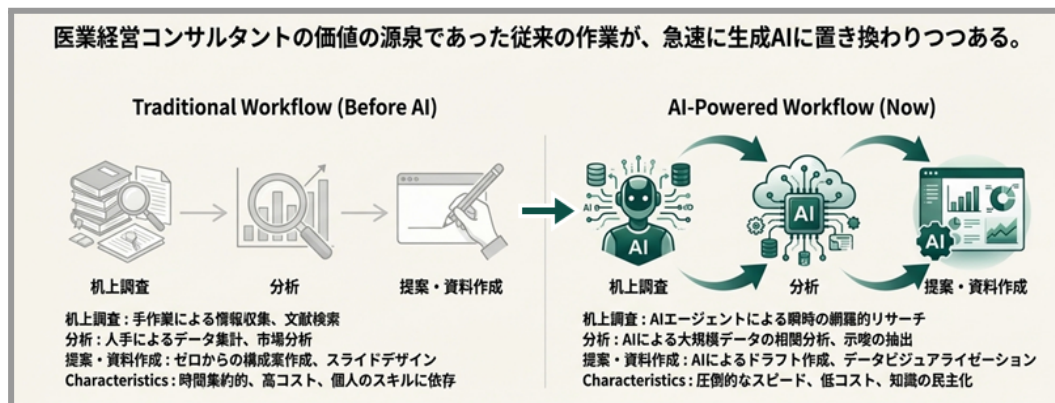


1. 医療機関がAI利活用を加速

- 診断補助、画像診断、カルテ要約(退院時サマリー)など、AI利活用による医療の質向上や業務負担軽減に向けた取り組みが、現場レベルで急速に始まっている。
- 特に診断のような知的作業においては、AIの精度が人間を凌駕する学术论文も出てきており、医療提供者側のAI導入の有無が、今後の医療機関の格差を生む分岐点になると指摘されている。
- 病院の勤務環境改善は、従来の「人から人へのタスクシフト(他職種への業務移管)」から、生成AIや自動化技術を活用した「人からAIへのタスクシフト」へ、明確なフェーズ・チェンジ(変革)を迎えている。

2. 医業経営コンサルタントの深刻な遅れ

- コンサルタント業務のうち、机上調査、データ分析、資料作成(提案書や報告書)などの知識集約的な作業は、生成AIの最も得意とする領域であり、代替・自動化が始まっている。



- 今後、AIの利活用が遅れている医業経営コンサルタントは、活動領域が狭まる(あるいは、限定的になる、競合他社に奪われる)という事態は避けられない。
- AI利活用を急速に進める医療機関に対し、医業経営コンサルタント側のAI利活用が遅れることは、提供価値の陳腐化や競争上の劣位を招く。

❖ 支援先の医療機関のAI利活用の現場を理解できなければ、的確なアドバイスは不可能になり、我々は「導く側」から「教えられる側」に転落しかねない。

II. 目的

我々の使命：脅威を機会へ、追従者から主導者へ
2026年度調査研究事業として、「Agetic AI 研究会」を新規設立。



Our Mission

- 守りから攻めへの転換**
AIに代替されるリスクをただ傍観するのではなく、AIを能動的に活用し、コンサルティング業務そのものを再発明する。
- 理論から実践へ**
AIに関する知識を学ぶだけでは不十分である。自ら手を動かし、ノーコード・ローコード開発に挑戦することで、実践的な「体験知」を蓄積する。
- 個人の知から組織の知へ**
個々のコンサルタントが持つ暗黙知を、AIを通じて組織全体の形式知へと昇華させ、協会全体の競争力を底上げする。

**これは、変化に対応するための受動的な学習ではない。
未来を自ら創り出すための能動的な研究開発である。**

1. 研究活動のミッション

このような状況を打破すべく、チェンジ・マインドセット「脅威を機会へ、追従者から主導者へ」とし、AI時代に医業経営コンサルタントが生き残り、医療機関に新たな価値を提供し続けるべく、国内基盤AI環境(Secure LLM+RAG)を利活用した「医業経営コンサルタントAIエージェント」の研究開発を通じて、AI利活用による変革の実践知を獲得することを目的²に、会員同士が互いに切磋琢磨する場を提供する。

1. AI代替業務の再定義と実践

- 従来型の医業経営コンサル業務(机上調査、分析、提案、資料作成など)において、代表的なユースケースを取り上げ、AIに置き換わるプロセスを机上検討する。
- AIの利活用を前提とした医業経営コンサルタント業務プロセスを再設計し、代表的なユースケースで、自らの業務を実験台に「人からAIへのタスクシフト」を研究する。

2. 安全なAI環境下での実践知の蓄積

- 国内法規制や高セキュリティ領域での運用を視野に入れた国内基盤AI環境(Secure LLM+RAG³)を活用し安全で信頼性の高い環境下で、AIエージェントのノーコード・ローコード開発研究を通じた実践知⁴の蓄積を目指す。

3. 「コンサルタントAIエージェント」のプロトタイプ研究

- 当協会独自の知見やノウハウを学習させた「医業経営コンサルタントAIエージェント」のプロトタイプを研究し、AIと人間の最適な協働・共創・共生モデル⁵を研究する。

² 当研究会が蓄積した知見「AI活用による変革の実践知」を当協会、ひいては医療機関の生成AIの導入及び実装の支援に展開する。

³ RAG(Retrieval-Augmented Generation、検索拡張生成)は、LLMの強力な機能を特定の分野や組織の内部ナレッジベースに拡張する。これにより、ハルシネーション(幻覚)を抑制し、生成AIの回答の精度と信頼性を高めることができる。

⁴ 単なるツールの開発や使用方法にとどまらず、現場で実際に機能するAIエージェントを構築・運用するための実践に基づいた具体的なノウハウ(問題や課題の抽出と分析、AI利活用のための重要な要因など)

⁵ 経営学者 野中郁次郎氏らが提唱する「知識創造理論(SECIモデル)」をベースラインとしてAIとの共生(Human-Machine Symbiosis)を前提とした新たな知識創造スパイラルを仮説設定し検証する。参考資料「(仮説)AIと人間の最適な協働・共創・共生モデル」参照

2. 将来構想

研究活動を通じて得られた知見「AI利活用による変革の実践知」を基に、次の将来構想を視野に入れる。

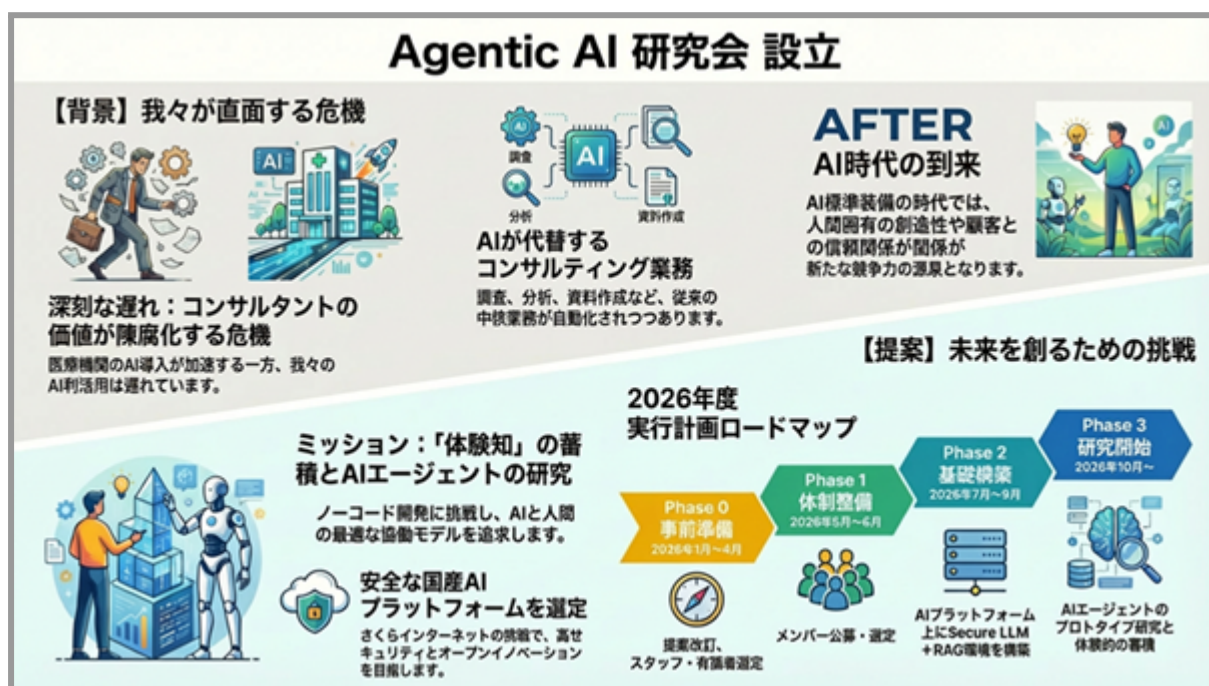
1. 会員向けサービスとしての展開⁶

- 将来的な近畿地区会員への「医業経営コンサルタントAIエージェント」の提供サービス化を視野に入れた、デモ版の試行と有効性の研究も視野に入れる。

2. 組織能力の底上げと競争優位の確立

- AI利活用を通じた組織学習を促進し、医業経営コンサルタント一人ひとりが「人間固有の創造性」と「AIの効率性」を両立できる次世代の医業経営コンサルタントモデルの確立に貢献する。

III. 概要



1. 研究会の基本方針

項 目	内 容
研究会名称	● Agentic AI 研究会
使 命 (Mission)	● 医療とITを、医業経営レベルで橋渡しする人材の育成

⁶ 将来的な近畿地区会員への「医業経営コンサルタントAIエージェント」の提供サービス(本運用)は当研究会が蓄積した知見「AI活用による変革の実践知」に基づき、外部ベンダーを評価選定し近畿地区協議会の審議・承認を経て、外部委託することを想定している。

将来展望 (Vision)	● 少子高齢化、人口減少下における日本の医療の種々の課題に対して、真摯に向き合って取り組み、日本の医療の変革(X)を促進し、健全で持続可能な日本の医療制度(国民皆保険制度)に貢献する。
行動指針 (Value)	● 楽しく、興味深く、真摯に向き合い、対話の姿勢で勇気をもって。 ～現在の延長線上には解は無く、アンラーニング(時代や環境の変化に合わせて、古くなった知識、固定観念、過去の成功体験を意識的に手放し、新しい学びを取り入れる)思考で、未知な領域に踏み込む「勇気」が求められている。～ → 「頑張る」、「努力」は禁句。「勇気」がキーワード。 → 研究員同士の「さん」付けを徹底、「先生」付けゼロを徹底。 → 「HRTの原則」を100%守り切る。(Humility(謙虚)、Respect(尊敬)、Trust(信頼)) → 短所ではなく長所を見る。短所は辛くても苦しくても全力で受け止める。 → 世の中を良くする、人・組織を成長させるなど、成果を出す研究会であることを最重視する。
共通価値観	● 現状起点の積上げ思考ではなく、未来起点の逆算思考と好奇心による創造を楽しむ。 ● 内発的動機付けを研究会活動の駆動エンジンとし心理的資本の醸成を図る。
研究目的	● AI時代に医業経営コンサルタントが生き残り、医療機関に新たな価値を提供し続けるべく、国内基盤AI環境(Secure LLM+RAG)を利活用した「医業経営コンサルタントAIエージェント」の研究開発を通じて、AI利活用による変革の実践知を獲得することを目的に、会員同士が互いに切磋琢磨する場を提供する。
研究目標	● 医業経営コンサルタント業務フローの内、AIに置き換わるプロセスを特定し、ノーコード/ローコード開発により「医業経営コンサルタントAIエージェント」のプロトタイプを創り、自らの業務を実験台に「人からAIへのタスクシフト」を研究する。

2. 利活用AIプラットフォームの選定

研究の再現性、信頼性、および将来的な医療分野への応用可能性を考慮し、さくらインターネット株式会社の国内基盤AIサービス⁷である「さくらのクラウド」⁸×「さくらのAI Engine」をAIプラットフォームとして、次の観点で選定した。

1. 国内法規制や医療分野に準拠した国内基盤AI環境(ソブリンAI⁹)

⁷ 参考資料「さくらのAIサービス説明資料(さくらインターネット)」参照

⁸ デジタル庁は2023年11月、ガバメントクラウド向けのクラウドサービスに、さくらインターネット株式会社の「さくらのクラウド」を条件付きで採択したと発表した。ガバメントクラウドへの採択は、「Amazon Web Services(AWS)」や「Google Cloud」、「Microsoft Azure」、「Oracle Cloud Infrastructure(OCI)」に続く5件目で、国産クラウド事業者としては初めてである。

⁹ ソブリンAIとは、国家や組織(企業など)が自国や自社のデータおよび技術を基に、独立して運用・管理するAIシステム。外部(外国)のクラウドサービスやデータセンターに依存せず、自国や自社のインフラ内でAIシステムを完結させる形態を指す。ソブリンAIにより、データのセキュリティやプライバシーの保護が強化され、企業や国家の戦略的な意思決定がより迅速かつ効率的に行えるようになる。

- 日本国内の法規制やガイドライン、医療分野の特殊性に準拠したインフラを利用し、安全なデータガバナンスの確保を目指す。

2. 高セキュリティ領域(閉域網)での本運用の可能性

- 当研究会ではインターネットVPNまたはWeb-SSLを用いるが、将来的な医療機関での要配慮個人情報の利活用の展開も視野に入れ、高セキュリティ領域(閉域網)での本運用が可能な基盤であることを評価した。

3. オープンイノベーション・エコシステムを志向

- OS、LLM、開発ツールはすべてオープンソース¹⁰を利活用することで、オープンイノベーションのエコシステムを目指し、技術の透明性と継続的な改善を確保する。

3. 研究体制

研究を推進する「研究員」と、当該研究を技術面でサポートする「技術スタッフ」及び有益なご意見やアドバイスを頂ける「外部有識者」で構成する研究体制とする。

1. 研究員(会員) 10名程度

- 近畿地区の会員に対して広く公募する。

2. 技術スタッフ(会員 or 非会員) 1名程度

- ネットワークエンジニア又はアプリケーションエンジニアを近畿地区の会員、若しくは会員からの推薦(非会員)を対象に打診及び選定する。¹¹
- OS、LLM、開発ツールなどオープンソースでクラウドの研究環境構築スキル要。

3. 外部有識者(非会員) 3名程度

- 私たち研究員のAIに関する不十分な知識や乏しい経験を補完し、有益なご意見やアドバイスを頂ける有識者を打診及び選定する。
- 技術系、学術系、法曹系 各1名。

4. その他

- 近畿地区以外の支部の会員は、オブザーバーとしてSlack&Zoomミーティング(月次研究会含む)に参加可。
- ゲスト(非会員)は、新規会員獲得の誘導手段の一つとして、近畿地区協議会の審議・承認に基づいて、月次研究会(Zoomミーティング)に一時的な参加可。

4. 会議体

1. 月次研究会

- 毎月第2土曜日 10:00~12:00

¹⁰ 公開されているLLMは、オープンソースモデルではなく、オープンウェイトモデル(ソースコードなどは非公開であるが、AIモデルの「頭脳」である学習済みパラメータ(重み)は公開)であり、誰でもダウンロードして特定業務に特化した高精度モデルを開発可である。

¹¹ 本業の合間を縫って、できる範囲内で、ローコード・ノーコードで開発研究できる環境のインフラ構築及び保守(調査研究事業なので常時稼働要件なし)をお願いしたい。構築及び保守の対価無しなので、当然、ドキュメント提出不要、24時間緊急対応も不要とする。また、当該技術スタッフには構築及び保守ノウハウなどのご提供は求めないこととする。

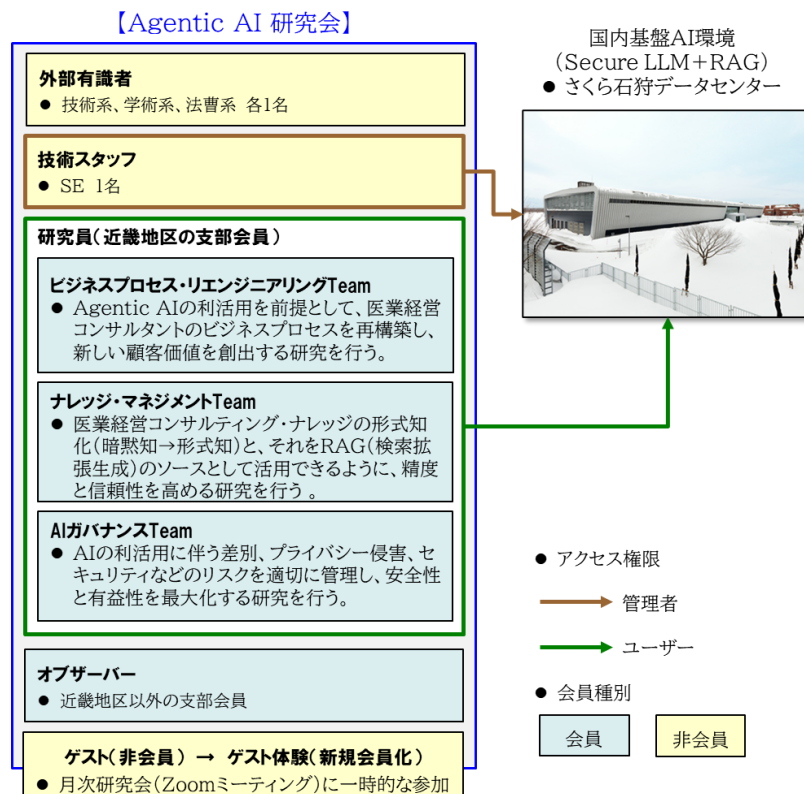
- Zoomミーティングとし、3か月に1回は研究員のみリアル¹²でハイブリッドとする。
- 参加対象は、研究員、技術スタッフ、外部有識者、オブザーバー、ゲスト(非会員)

2. Team(Team単位で任意開催)

- 3つのTeamを設け、三位一体で研究を進める。研究員(近畿地区の支部会員)はご自身の価値観、強み、弱みに基づいて、単一又は、複数のTeamに所属する。
 - 1) ビジネスプロセス・リエンジニアリングTeam
Agentic AIの利活用を前提として、医業経営コンサルタントのビジネスプロセスを再構築し、新しい顧客価値を創出する研究を行う。
 - 2) ナレッジ・マネジメントTeam
医業経営コンサルティング・ナレッジの形式知化(暗黙知→形式知)と、それをRAG(検索拡張生成)のソースとして活用できるように、精度と信頼性を高める研究を行う。
 - 3) AIガバナンスTeam(マンパワーとの兼ね合いで設置)
AIの利活用に伴う差別、プライバシー侵害、セキュリティなどのリスクを適切に管理し、安全性と有益性を最大化する研究を行う。

3. Slack&Zoomミーティング(随時適宜)

- 当研究会専用Slackワークスペースを設定すると共に、Zoomミーティングなどにより、適宜、オンラインで打ち合わせや進捗状況の報告&確認を行う。
- 対象は、研究員、技術スタッフ、外部有識者、オブザーバー、ゲスト(非会員)



¹² 内発的動機付けを当研究会活動の駆動エンジンとし、研究員の心理的資本の醸成を図る。

5. 計画の具体性

本提案は、机上の空論ではない。構想の実現可能性と最適な技術選定のため、主要なAI関連ベンダーと具体的な協議を重ねてきた。

2025/05/22	 Microsoft Base（立命館大学）  Focus: クラウドAI基盤、Azure OpenAI Serviceの活用可能性
2025/08/19	 株式会社ギブリー  Focus: 実践的なデジタル人材育成、ノーコード・ローコード開発研修
2025/09/09	 株式会社ハイレゾ  Focus: GPUインフラ、AI開発環境の構築
2025/11/20	 さくらインターネット株式会社  Focus: 国産クラウド、高セキュリティAIプラットフォームの仕様と導入

IV. 今後の予定

【フェーズ0】 事前準備(2026年1月～4月)

- a) 近畿地区協議会の審議結果のフィードバックに基づく2026年度調査研究事業提案の改訂
- b) 技術スタッフ(近畿地区の会員、若しくは会員からの推薦(非会員))の打診・選定¹³
- c) 外部有識者の打診・選定¹⁴

【フェーズ1】 体制整備(2026年5月～6月)

- a) 研究会メンバー(研究員)の公募を行う。
- b) 外部有識者、技術スタッフへ近畿地区協議会代表者名で協力依頼文書を送付。
- c) 研究会メンバー(外部有識者、技術スタッフ、研究員)の専用Slackワークスペースを設定する。

【フェーズ2】 利用AIプラットフォーム構築(2026年7月～2026年9月)

- a) 医療経営コンサルタント業務フローの内、代表的なユースケースを取り上げ、AIに置き換わるプロセスを研究(机上検討)する。(本業の合間を縫って、個人またはチームで対応)
- b) AIプラットフォーム(さくらのクラウド×さくらのAI Engine)上にSecure LLM+RAG環境を構築する。(技術スタッフによるボランティア活動)

¹³ まず、医療DX研究会研究員の方々にお声がけし、会員及び推薦(非会員)を募るなど、「技術スタッフの確保」が当研究会のKSF(Key Success Factor:重要成功要因)の一つであり、2026年3月末までに内諾を目指す。

¹⁴ 医療DX研究会 2024年度外部有識者(国立情報学研究所 ストラテジックサイバーレジリエンス研究開発センター センター長 高倉弘喜氏など)の人脈を辿る。尚、技術系外部有識者として、さくらインターネット株式会社AI事業推進室に打診予定。

- c) 月次研究会(毎月第3土曜日10:00～12:00)にて、前述のa)、b)の進捗状況や課題認識のすり合わせを行う。
- d) また、並行して、AIに関する勉強会を行い、互いのAIスキルを高めることとする。

【フェーズ3】「コンサルタントAIエージェント」の研究(2026年10月～)

- a) 前フェーズ2のa)で机上検討した代表的なユースケースのAIに置き換わるプロセスについて、ノーコード/ローコード開発による「コンサルタントAIエージェント」のプロトタイプを研究し実践知を蓄積する。(本業の合間を縫って、個人またはチームで対応)
- b) 月次研究会(毎月第3土曜日10:00～12:00)にて、前述の進捗状況や課題認識のすり合わせを行う。
- c) また、並行して、AIに関する勉強会を行い、互いのAIスキルを高めることとする。

V. 添付資料

1. 2026年度概略スケジュール表

2. 参考資料

- 1) (仮説)AIと人間の最適な協働・共創・共生モデル
- 2) 生成AI、AIエージェント、エージェントックAIについて
- 3) 日本のAI戦略「世界で最もAIを開発・活用しやすい国」
- 4) 専門知識不要！ノーコードでできるAIエージェント開発(DELLTechnologies)
- 5) 「さくらのAI」サービス(さくらインターネット)
- 6) 国産GPUクラウドと導入事例から学ぶAI開発成功のヒント(さくらインターネット)